

一般財団法人
全国大学実務教育協会

会報

November 2016
第16号

CONTENTS

平成28年度会員校代表者交流会	02
協会の動き	03
平成27年度実務教育優秀教員被表彰者寄稿	04
実務教育の現場から	05
協会からのお知らせ	06

会員校代表者交流会開催「テーマ」 大学における人材育成

 **JAUCB** 全国大学実務教育協会
Japan Association of University and College for Business Education

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12
第三東郷パークビル二階
TEL:03-5226-7288 FAX:03-3263-8633
E-mail: jaucb@jaucb.gr.jp
URL: <http://www.jaucb.gr.jp>

「こども音楽療育士」「保育音楽療育士」

—教員間・科目間連携で向上させる教育力—

札幌国際大学 人文学部心理学科こども心理専攻 准教授 三宅浩子



この度は、実務教育優秀教員として表彰して頂きましたことを心より感謝申し上げます。本学の「保育音楽療育士」「こども音楽療育士」教育課程は、前任者である林 昌子氏(元札幌国際大学教授)が地域の有志と共に約20年前に発足した音楽療育研究会の活動が基盤となり、本学に設置されました。研究会活動の柱は、地域の障がいのある子どもと家族のために学内で開催した音楽療育ワークショップでした。現在、音楽療育WSは地域貢献事業として本学の強力なバックアップを得て開催を継続しております。前任者の長年の取り組みにより、音楽療育WSは関わりのある親子のみならず、地域の保育や療育機関にも信頼される事業として認知されるようになりました。

本学で学ぶ学生にとって最も有益な点は、この音楽療育WSで2年間に渡る長い期間、実習ができるということです。音楽療育WSは、課程の専門科目を担当する教員たちも運営に関わっています。この環境を最大限に活かすため、各教員は実習を含む専門科目を連携させるシラバスを作成しています。そして、子ども理解とこれに繋がる音楽療育を、学生が現実的・具体的に捉えることができるような授業を全員で研究して参りました。私は、科目を担当するだけでなく、WS運営と「保育」「こども」音楽療育士教育課程を統括する役目も努めさせて頂いています。学生が自ら学ぶ意義を見出し、意欲的な学習を促す体系が構築されてきたのは、前任者の地道な土壌づくりと、科目間・教員間連携の賜物であると確信いたします。この度の表彰は、音楽療育チームの教育力に対する評価であると受け止めております。多くの方々のご理解とご尽力に支えられ、学生にとって魅力ある充実した教育が実現しておりますことに、あらためて感謝申し上げます。

音楽療育士教育課程で学んだ学生を、多様な子どもたちに対応する保育力を備えた人材として現場に送り出せるように、今後力を尽くしてまいります。

デザイン制作を通じた実践的なビジネス実務教育

福島学院大学 短期大学部情報ビジネス科 准教授 木村信綱



このたびは、平成27年度の実務教育優秀教員として表彰いただき、心より感謝申し上げます。

福島学院大学は、学院創立75周年、短期大学開学から50周年を迎えました。私の所属する情報ビジネス科は、女子短期大学秘書科から平成12年の男女共学化に合わせて改組し、ビジネスの現場で即戦力として活躍できる人材育成を目指す学科として再スタートしました。ビジネス実務能力やマナー教育と基本的なITスキルをベースに、デザインも学ぶことができる点が特色です。

私の担当する「グラフィックデザイン演習」や「ウェブデザイン演習」では、デザイン業界を志望する学生だけでなく、一般企業への就職を志す学生にとっても将来役立つスキルとして、課題発見や情報発信の手法、アイデア発想法などについて広く取り扱います。

作者が思い通りに制作できる芸術と違い、デザインには必ずクライアントが存在し、成果が求められます。ニーズの把握や競合分析などを経て、アイデアを拡散・収束させながら課題を解決していくプロセスは、ビジネス実務の縮図とも捉えることができます。また、すべての企業・団体は必ず何かしらの情報を発信しますが、その情報はデザインという形でユーザーに届けられます。このように、情報ビジネス科ではビジネス実務教育の一環としてデザイン教育を行っています。

情報ビジネス科が福島駅前のサテライトキャンパスに移転した平成18年から、周辺の企業や団体からデザイン制作を受託し、私のゼミに所属する学生と一緒に地域の課題を解決する取り組みを始めました。平成23年の東日本大震災以降は、福島県全体で情報発信と課題解決のニーズが高まり、市内の温泉旅館の若旦那を主役にしたフリーマガジン「若旦那図鑑」の企画制作を始め、多くの連携プロジェクトを手がけることになりました。学生にとっては架空の授業課題と違い、社会人を相手に、納期とクオリティを意識した緊張感のある学びの場となっています。今後もこうしたプロジェクトを通じて、地域に根ざした実践的な教育を展開したいと考えております。

真の実践力育成に向けた 教育への取り組み

大阪成蹊大学 マネジメント学部
教授 稲村 昌南



はじめに（教育の基本方針）

大阪成蹊大学マネジメント学部(以下、本学部)では、大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、現代の社会・経済環境の下で求められる「ビジネス(業務の設計と運用)とマネジメント(経営資源の管理と活用)及び情報処理に関する基礎的能力とスキル」及び「コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を修得し、企業・組織の中で自ら考え主体的に行動するとともに、他人と協働しながら、現代の多様な経営課題の解決に貢献できる「人間力」を備えた人材を育成することを目的とした教育を行っています。

専門教育と人間力教育の両立

本学部では、ビジネスとマネジメントを土台としながらも社会の多様なニーズに対応すべく、マネジメント学科とスポーツマネジメント学科の2学科を設置しており、さらにマネジメント学科には経営、食ビジネス、観光ビジネスの3コースを配置し、それぞれの分野で必要となる専門知識と技能の習得をめざします。これらは、ビジネスとマネジメントの基盤知識を修得するための「学部共通専門科目」とスポーツ、経営、食、観光の4つの領域の専門知識を修得するための「学科別専門科目」を履修することにより系統的に身につけられるようになっていきます。

一方で、近年、産業界から強く求められている「人間力」や「社会人基礎力」等の名称で呼ばれる汎用的な能力の育成にも力を入れています。こうした能力は一般に受け身ではなく能動的な学びの中で育まれることが知られています。そこで、「講義」、「演習」、「実習」といった授業の形態に関わらず、双方向型のいわゆる「アクティブラーニング」を積極的に取り入れています。教員と学生による対話や学生同士の学び合い(ペアワーク)、また複数で協力しながら課題に取り組むグループワークなどを通して学生から学ぶ意欲を引き出し、学生が主体的に学びに取り組めるような環境づくりに努めています。

社会とのつながりを意識した実践教育

アクティブラーニングは、学生自らがアクションを起こすきっかけとなるという意味で実践力を向上させる1つの要因となりますが、真の実践力は社会の実問題の解決を通して養われるといえます。そのため、学外に出て、社会の人々との関わりの中で思考し、行動し、学びを深めていく授業が有効となります。協会の「実践キャリア実務士」の必修科目となっている「基礎演習1」では、大学の所在地である相川地区の活性化策について学生が主

体となって企画するというプログラムを実施しています。この過程で学生は、現場を歩き、地域の人たちとのコミュニケーションを通して課題を発見し、解決案を提案するという実社会と同じ枠組みの中での課題解決プロセスを体験します。1年生科目ということで、専門的な知識が求められるわけではありませんが、学生は1つの疑問から学びを掘り下げていくことの大切さを実感するようです。

専門スキルを高めるためのアクティブラーニングは、企業や自治体との連携という形で実施されます。「上級ビジネス実務士」の資格取得要件科目である「ビジネスマネジメント実践演習」では、実在の商品について学生が企画案を提案するという授業を展開しています。その際には、商品を扱う企業から現実に抱える課題が提起されます。たとえば、「この商品を中国人観光客に買ってもらいたいが、どうすればよいか?」といったものです。これに対し、学生は商品特性やターゲットの特徴・傾向などを分析し、その結果を踏まえ販売促進の企画書を作成します。企画書に対する評価は時に厳しいものになりますが、学生にとっては、実務の現場レベルを肌で感じることができ重要な機会となっています。

実践力を向上させる学習サイクルの確立

学習効果を高めるには、実施で終わるのではなく実施と評価、そしてふりかえりのサイクルを機能させることが必要です。そこで、本学部では12の要素から成る独自のコンピテンシーモデルを設計し、それぞれの要素についてルーブリックによる自己評価を行うeポートフォリオシステムを構築しています。学生は、上記のような産学連携のアクティブラーニング実施後に自己の活動をふりかえり、実践の中で能力を発揮できたか評価するとともに、過去の評価との比較からグラフ化された経年変化を通して自己の成長度合いを認識します。

おわりに

社会で求められる真の実践力を育成するために、本学部では社会との関わりの中で主体的に学びを深めていく学習に力点を置いています。アクティブラーニングを取り入れたこうした学びは、「実践キャリア実務士」や「上級ビジネス実務士」の取得要件科目となっており、資格取得に向けた学習が実践力の育成と連動するようカリキュラム設計しています。今後は、独自のルーブリックに加え、協会が作成したルーブリックの活用を通して、学生が成長をより実感できるような教育に努めてまいります。

協会からのお知らせ



訃報

本協会 名誉会長 和野内 崇弘先生病氣療養中の処10月17日に永眠いたしました。(享年85歳)

資格改革に係る資格の体系化

本協会の資格は全部で28存在していますが、会員校のニーズに対応して資格開発を進めてきたという背景から、全体として統一感を欠いてしまっているため、次の点を踏まえて資格の体系を作成しました。

全国大学実務教育協会資格の体系

一人へのまなざしをとらえた就業力・汎用的能力の修得と幅広い専門分野に対応した実務力の修得をめざす

資格の分類	
養成分野 教養・基礎的能力の 養成分野	大学と働く現場をつなぐ就業力を養う ・実践キャリア実務士* 社会人に求められる汎用的能力を身につける ・プレゼンテーション実務士 ・ビジネス実務士 ・秘書士 ・ウェブデザイン実務士 ・情報処理士
	進化する産業分野に対応した実務力を身につける ・上級ビジネス実務士 ・上級ビジネス実務士(サービス実務) ・上級秘書士 ・上級秘書士(メディカル秘書) ・上級情報処理士 ・観光ビジネス実務士 ・環境マネジメント実務士 ・上級環境マネジメント実務士 国際社会に対応した実務力を身につける ・上級ビジネス実務士(国際ビジネス) ・上級秘書士(国際秘書) ・国際ボランティア実務士 教育・福祉の専門分野に特化した実務力を身につける ・保育音楽療育士 ・子ども音楽療育士 ・園芸療法士 ・生活園芸士 ・カウンセリング実務士 地域社会の専門分野に特化した実務力を身につける ・社会調査アシスタント ・社会調査実務士 ・NPO実務士 ・ボランティア実務士
専門的能力の養成分野	

*実践キャリア実務士は、学修成果の評価方法として協会が認めるルーブリック(到達目標達成度評価票)に基づいて学生一人ひとりの就業力を評価する。

平成28年度実務教育優秀教員 被表彰者の推薦期限

平成28年度の実務教育優秀教員の推薦受付は、平成28年11月15日(火)から12月15日(木)までとなっています。ご推薦をお待ちしております。

平成29年度新規入会及び 新規教育課程認定等の申請期限

平成29年度新規入会及び新規教育課程認定等の申請期限は、平成29年1月25日(水)です。

すでに承認を受けている教育課程の変更(科目の追加・削除、科目名の変更、協会承認の◎印の専任教員の変更等)についても、変更実施前に事前に上記提出期限までに申請する必要があります。

なお、既にご案内のとおり資格必修科目のシラバスの様式が変わりましたので、申請書類を作成の際はご留意をお願いします。申請書類の様式は、協会ウェブサイトからダウンロードできますのでご利用ください。

また、事前指導を受け付けておりますので、申請書類の作成方法や、教育課程の内容等についてご不明な点がございましたら、事務局(電話03-5226-7288)までお問い合わせください。

平成28年度3月期資格認定証の 授与スケジュール

平成28年度3月期の資格認定証の授与スケジュールは、次のとおりです。期日厳守をお願いします。

平成28年		
10月25日	協会→会員校	資格認定に関する調査表提出依頼 発送
11月7日	会員校→協会	資格認定に関する調査表 提出メ切
調査表 受理後	協会→会員校	資格認定証申請手続について 発送
12月5日	会員校→協会	資格認定証申請書・一括表等提出、 申請料納付 メ切
申請確認後	協会→会員校	申請書類等の受理について 発送

平成29年		
1月11日	協会→会員校	授与予定者リスト校正依頼等 発送
1月25日	会員校→協会	授与予定者リスト訂正連絡票、 単位認定教授会・資格認定証授与予定日程 提出メ切
単位確定後	会員校→協会	資格認定単位修得確定報告書 提出
確定報告書 受理後	協会→会員校	資格認定証 発送
認定証 受理後	会員校→協会	資格認定証受領書 提出